

令和8年度 第1回富山市交通空白輸送地域公共交通会議 議事録

1. 日時 令和8年4月24日（金）10:00～10:20

2. 場所 富山市役所 東館8階 802会議室

3. 出席状況

【出席者】

団体名等	職名	氏名	備考
富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科	教授	本田 豊	
富山市自治振興連絡協議会	副会長	山田 憲彰	
富山地方鉄道株式会社自動車部営業課	課長	奥村 大	
富山県交通運輸産業労働組合協議会	議長	金山 剛	代理出席
富山県タクシー協会	専務理事	高田 順一	
全国自動車交通労働組合富山地方連合会	執行委員長	石橋 剛	
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局	首席運輸 企画専門官	桑原 健	
富山県警察本部交通部交通規制課	課長	平野 正樹	代理出席
富山県交通政策局 地域交通・新幹線政策室	室長	島田 太樹	代理出席
富山県富山土木センター	次長	前田 清美	
富山市活力都市創造部	部長	高橋 洋	

【説明者】

・富山市

※同席 水橋コミュニティバス運行協議会 理事長 堀田 宏

【事務局】

・富山市活力都市創造部交通政策課 参事 野村 知範、課長 杉木 光晴、
主幹 新本 晃久、主査 坂口 実代子、主査 小川 大輝

4. 議事

・議決事項

議案第1号 水橋地域 AI オンデマンド交通実証運行の区域拡大について

(資料)

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・会議資料
- ・富山市交通空白輸送地域公共交通会議設置要綱

議案第1号 水橋地域 AI オンデマンド交通実証運行の区域拡大について

【資料説明】

富山市、水橋コミュニティバス運行協議会

【意見・質問要旨】

(委員)

運行区域図にて、「水橋中部地区と三郷地区に公共施設有」と記載があるが、公共施設とはどこか。

(富山市)

主に富山市の出先機関である地区センターである。富山市の地区センターでは、簡易な行政サービスを受けることができるようになっており、そちらにもいけるようになる予定である。

(委員)

そこにバス停を置くということか。

(富山市)

その通りである。

(委員)

現在ハイエースとミニバンで運行しているということで、乗車定員的には十分足りているということか。

(富山市)

事業の実績を簡単に説明すると、実際に需要が集中するのは午前中、スーパーに行きたい時間帯ということで、そこは現在はなんとか足りているという現状である。そのうえでも隙間に余白があるので、現在の運行の中では3台で足りるのではないかと認識している。

(委員)

小中学生は運賃が無料ということだが、利用者の年齢層の実態はどうか。

(富山市)

実態としては、利用者の8割、9割は高齢者である。免許返納している方や、車の運転に不安がある方の利用が主な利用で、時々、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に子供が乗る様子も見受けられる。小中学生は、平日の日中の移動はあまりないので、利用数は多くはな

い。

(委員)

そういった方々には、なくてはならない交通手段になっているのではないかと考えている。

(委員)

今の質問に関連して、今年の4月に水橋学園が開校し、登校については、この運行時間では難しいのではないと思うが、帰りに小学校中学校の生徒さんがこのバスを利用して帰宅することは想定されているか。

(富山市)

水橋学園の運行に関しては、登校下校ともに教育委員会でスクールバスを運行している。その中で、いつも通りであればスクールバスを利用する方が、自宅ではないところに帰らなければならない子供がいた際は、親御さんが予約するというケースも想定している。

(委員)

実際の予約のニーズはどうか。当日予約の方も多いのか。

(富山市)

当日予約ももちろん多いが、昨年は10月から運行を開始したため、晴れの期間が多いときは2日、3日前からの予約が非常に多かった。冬季に関しては、肌感覚だが、当日予約のほうが多いと感じている。

(委員)

当日のニーズもあるということですね。

(委員)

予約はスマホですということ、先ほど利用者は高齢者の方が多いとのことでしたが、うまく使いこなされているか。

(富山市)

実際には、9割以上は電話予約だという実態となっている。ただ、先ほど説明した子供の分の予約は親御さんがスマートフォンで予約するケースもみられるが、市の別部局がスマホセミナーを様々な場所で開催しており、その参加者の方は高齢者でもスマートフォンで予約しているケースもみられる。

(委員)

予約した場合は電話でもスマホでも、予約したという何か通知がくるのか。

(富山市)

スマホでの予約の場合は、登録したアドレスにメールで通知が届き、電話の場合でもコールセンターで確認しながらできるので、仮に予約した時間を忘れた際は、コールセンターに電話すれば、確認が取れるようになっている。

(委員)

運行日が月曜日から金曜日ということで平日ですが、土日祝日のニーズはあるのか。

(富山市)

土曜運行については、実際には今年度4月から設定している。ゴールデンウィークに初めて、休日運行の実施がある。

昨年度は月曜日から金曜日だったが、アンケート調査の結果では、土曜日でも少し需要が見受けられたので、午前中のみ、運行日を設定した。それも含めて今年度は皆さんの意見を取りたい。

(委員)

もしかしたらニーズが出てくるかもしれないということですね。

(委員)

目的地としては、先ほどの説明で、買い物でショッピングセンターが多いということだが、駅の利用というものはどうでしょうか。

(富山市)

圧倒的に多いのはショッピングセンターである。ほかには駅にアクセスすることも可能としている。駅の場合、システムで鉄道に乗り遅れないように時間を設定しているので、それも踏まえて安心して利用されているという方も少しずつ増えてきた。そのほかに、いくつか病院も設定しているので、そちらに行っている方も見受けられる。

(委員)

現在もかなりの数の停留所があるが、今度は倍くらいの数になるが、停留所のニーズというものもあるのか。

(富山市)

実証実験以前は、小型バスを利用した定時定路線のバス路線でこのエリアを運行していたが、水橋地域の集落によっては、住宅同士が密集しており、中型バスでは入れない狭い道

路がたくさんある。現在、車両が小型化したことで、利用者の拡大が見込まれることから、事務局と協力して、周知活動にも務めている。実際には、これまでのバスではいけなかったところへも利用されていることも実績をもとに把握している。引き続き、周知も含めて行っていかなければいけないと感じている。

(委員)

昨年度までの議論を知らないので聞きたいのだが、水橋中部地区と三郷地区の2地区が今回参加するのはどういう経緯か。

(富山市)

運行地域は、水橋西部地区、水橋東部地区、上条地区とそれぞれ小学校区でわかれているが、地区によってコミュニティバスができた背景は異なっている。水橋西部地区、水橋東部地区で運行していたコミュニティバスの場合は、水橋中部地区にある大きな商業施設を利用したい方向けに運行していたコミュニティバスだった。上条地区も同じである。10年以上経つ中で、三郷地区は比較的若い世帯が多く、水橋中部地区は立地的にもそれほど不便ではなかったという背景だったが、三郷地区も高齢化が進み、コミュニティバスの必要性が高まってきた。また、水橋中部地区も路線バスの廃線や高齢化率が高い地域であり、徒歩での移動の面が懸案課題として意見がでてきた。そのうえで昨年度の10月からこの3地区で実証運行を開始したところ、両地区の町内会や自治会でも関心が高まってきたという背景がある。

【議決】 原案のとおり承認

(以上)